

八ヶ岳アートブックフェア 2025 林業展示（山梨県北杜市）

■事業の目的

本事業は、林業の担い手不足の解消と、特に女性が参入しやすく継続して働ける環境づくりを目的として実施した。山梨県北杜市で開催された「八ヶ岳アートブックフェア 2025」において、女性林業従事者が主体となり、林業の魅力や現場の工夫、課題などを来場者へ発信する展示・体験を行った。展示では、実際に使用している道具や木材、協力企業から提供を受けた合板作品を通して、林業の仕事の流れや“森の循環”をわかりやすく紹介した。これらを通じて、林業が暮らしを支える産業であることを伝え、女性や若年層が林業に関心を持つきっかけを創出し、女性の林業就業促進に繋げる。

■事業の内容

2025年10月4日（土）・5日（日）に、北杜市明野町「GASBON METABOLISM」にて開催された「八ヶ岳アートブックフェア 2025」に出展した。展示テーマは「林業」（女性林業従事者による発信）。林業現場の写真や道具を展示し、作業工程や女性が現場で工夫している点を紹介した。また、キーテック株式会社山梨工場より提供を受けた合板を使用し、木材産業と林業のつながりを表現した。さらに、リーフレットやパネルを制作し、田尻林業株式会社の仕事や女性林業従事者としての活動内容を紹介することで、来場者に林業の理解を深めてもらう展示を行った。展示スペースでは来場者との対話も多く、林業のイメージや働き方について関心を持つ人が増えるきっかけをつくることができた。

■参加人数

「八ヶ岳アートブックフェア 2025」では、2日間の総動員数は延べ400名であった。そのうち、キコリとヤギブースに立ち寄った女性来場者は延べ15名であり、幅広い年代の女性が林業の働き方や女性の参入について関心を寄せていた。

■活動の様子

会場となった GASBON METABOLISM では、アートやデザイン関係者に加え、地方や自然に関心のある都市部在住者が多く来場した。林業の展示は会場内でも注目を集め、女性林業者による取り組みとして多くの共感を得た。

- ・展示ブースでは、実際のチェーンソーや道具、木材、合板作品を用いて「林業のリアル」を可視化。来場者が道具に触れながら質問する姿も多く見られた。

- ・リーフレットやパネル資料を通して、林業の仕組みや働き方、女性が現場で活躍するため

の工夫などを紹介した。

・また、会場内でトークを行い、林業に携わるきっかけや現場での経験、女性として働く上で感じる課題ややりがいを語った。トーク後には多くの来場者から質問や感想が寄せられ、林業への理解や興味を深める機会となった。

・展示を通じて、林業に対する理解促進だけでなく、女性林業者同士の交流やネットワークづくりにもつながった。



上記写真は、東京から移住してきたご夫妻が参加されました。

林業用作業着の構造や素材の説明を受ける参加者の様子。実際に手に取りながら、日常の衣類との違いや、防護性能が求められる理由を学んだ。女性でも扱いやすい装備選択の重要性を共有した場面。アンケートも記入していただきました。



海外から参加した10代の女性を含む参加者が、作業着のサイズ感や着心地について確認している様子。国籍や経験に関わらず林業に触れる機会となり、森林・自然に関心を持つきっかけづくりにつながった。「日本の林業を学んでみたい」という声も聞かれ、活動の広がり

を実感した場面。



60代の女性参加者が作業着を手に取りながら説明を聞き、かつては「林業は男性の仕事」というイメージが強かった時代を振り返りつつ、現在では女性も参入できる環境が整ってきていることに驚いていた。自身は年齢的に林業の現場に入ることは難しいと話していたが、「木材を暮らしに活かすことには関われる」と前向きな感想があがった。機械化が進み安全性が向上したことにより、昔よりも働きやすい環境になっていることを確認する時間となった。



展示には、実際の伐採作業では使用しない小型チェーンソーを配置し、誰でも手に取りやすいように安全性に配慮した展示とした。来場者は丸太や木製キャンドルスタンドと並べて見比べることで、木材が現場から製品になるまでの流れをイメージしやすく、林業と暮らしのつながりを視覚的に理解できる展示となった。